

完璧じゃなくていい。できる人が、できるときに、できることを。

あなたの『ちょっといいかも』が、この町の未来の力になります。
まずはあなたの町の町内会、のぞいてみませんか？



町内会は、もう「我慢してやるもの」や「押し付けられるもの」ではありません。

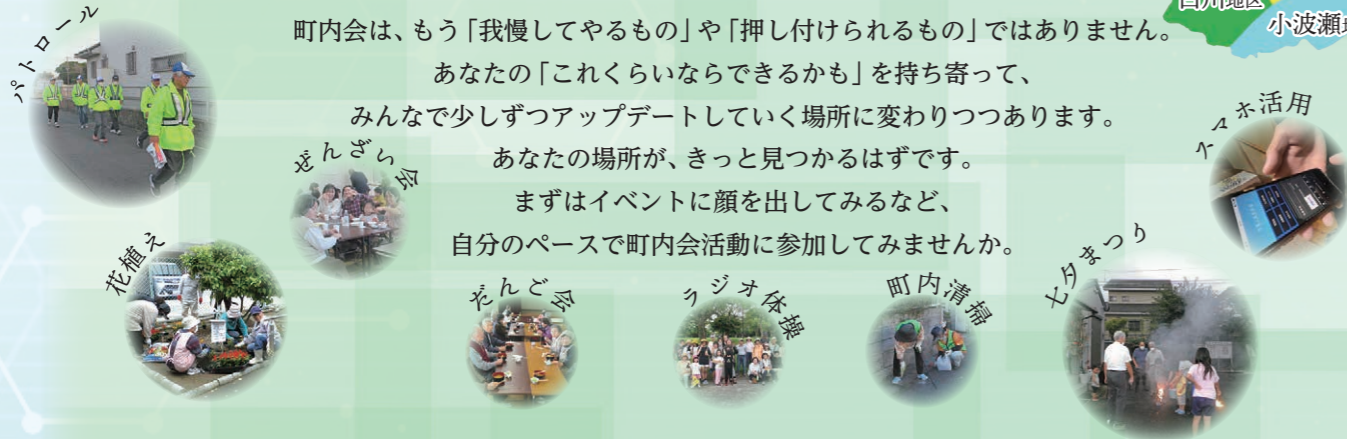
あなたの「これくらいならできるかも」を持ち寄って、

みんなで少しずつアップデートしていく場所が変わりつつあります。

あなたの場所が、きっと見つかるはずですよ。

まずはイベントに顔を出してみるなど、

自分のペースで町内会活動に参加してみませんか。



関わり方はグラデーション。

<p>STEP 1 知る・見る</p> <p>区の掲示板などを見る。知らなかったイベント等の発見があるかも。</p>	<p>STEP 2 参加する</p> <p>お客さんとしてイベントや祭りに行ってみる。思わぬ輪が広がるかも。</p>	<p>STEP 3 手伝う</p> <p>片付け、準備だけ、1時間だけでも大歓迎。</p>	<p>STEP 4 関わる</p> <p>こんなことをやってみたいというアイデアを出す、得意なPC作業やデザインで資料作りを手伝うなど、自分ができる範囲で関わる。</p>
---	---	--	--



UPDATE! わたしたちの町内会

～つながるって、案外いいかも。～

町内会って!? 実際どうかいっ

巷のウワサを検証!

係や役員が大変そう…昔からの加入者が多くて入りづらそう…そんな“モヤモヤ”の答えを、区長や活動している人に聞いてみました!

活動はイメージできるの? 実際は何をやっているの?

A区長 目玉はズバリ祭り! 神輿やこども出店など、案を出して企画して、こどものころ経験した地域の思い出をこどもの世代にも受け継ぎたい、今度は自分たちが盛り上げる番だと思って活動しています。

B区長 毎年、餅つきやだんご汁を作ってみんなで親睦を深めています。こういった集まりで地域全体がいきいきしていきますね。特にこどもたちが喜ぶ顔を見ると嬉しくなるし、皆さんが笑顔で過ごせる地域にしたいと思います。

仕事しながら町内会への参加は難しい?

A住民 お祭りのときなど、参加できる範囲で参加しています。

それ、町内会がやっています

B区長 2か月に1回、地区別に防犯パトロールを実施しています。そのおかげか、最近は夜になっても怪しい人を見かけなくなりました。自分たちが住んでいる地域の治安を守るのも町内会の役目です。こどももお年寄りも安心できる地域にしたいですね。

F区長 住宅開発で、町内会に家族連れが何軒か引っ越してきたんです。小さいお子さんもいるそうで、こどもたちが夜暗いと危ないと思って防犯灯を設置しました。地域の防犯灯は町内会が設置して管理しているんです。安心安全な地域を作ることが町内会の役目だと思っています。

C区長 常に新しい仲間やアイデアは募集中。かなり前に新しい仲間が増えないことには実は、中の人も悩んでる?

G住民 防犯講習に参加しました。普段は活動に参加できないけれど、散歩のついでに、町内会からもらった「ながら防犯」リストバンドをつけてパトロールするなど、自分ができるところの範囲のことをやっていますよ。

D区長 デジタル回覧板などをうちの区でもやってみたいけれど、役員も高齢でスマホのことはからっきし。今時の人ならスマホでビューンと連絡を回したりできるんだろうけれど、正直、力を貸してほしい。

ウワサの先には、地域の「顔」や「声」といったリアルなつながりがあり、誰もが無理なく参加できる場所があります。町内会はあるの暮らして支える身近な味方です。ちょっと顔を出すだけでもいいし、自分の得意分野で関わるだけでも大歓迎です。

ます。この前は探していた習い事教室が近所にあることを紹介してもらいました。ネットにも載っていない情報です!

B住民 仕事をしながら組長ができるか不安でしたが、広報紙を配るなどは、こどもたちと一緒に案外楽しくできました。きないけれど、散歩のついでに、町内会からもらった「ながら防犯」リストバンドをつけてパトロールするなど、自分ができるところの範囲のことをやっていますよ。

作られた町内会の形を、今は見直してブラッシュアップしていく時期だと思おう。気負わず、フリーな気持ちで参加してほしい。

D区長 デジタル回覧板などをうちの区でもやってみたいけれど、役員も高齢でスマホのことはからっきし。今時の人ならスマホでビューンと連絡を回したりできるんだろうけれど、正直、力を貸してほしい。

西日本工業大学地域・産学連携センター客員講師
西村健司先生のコメント


地域のつながりが守る、安心な暮らし

地域での「顔の見える関係」は、安全・安心な暮らしに不可欠です。特に災害時には、行政の支援だけでなく、住民同士の「共助」が重要になります。日頃からのつながりが、安否確認や助け合いに繋がります。

この関係は、日常でも地域の安心感や見守り、子どもから高齢者まで支え合う環境を育みます。自治会は、

こうした人と人の関係性を育み、地域の課題を共有しながら支え合いを生み出す大切な基盤です。

生活様式が多様化する中で、無理なくできる範囲で地域に関わるのが大切です。行事参加やちょっとした交流など、小さな関わりを積み重ねが地域のつながりを深め、安心して暮らせる地域社会の形成につながると考えています。



西村健司先生

想像してください。大規模地震や水害で、ライフラインが切断され情報も途絶えたとき。

そんな極限状態で頼りになるのは、やはり「顔の見える近所のつながり」です。

実際に、2011年の東日本大震災では、普段から地域のまとまりがあった地区で、迅速に避難体制が確立されました。

避難所での生活では、普段のあいさつや気軽なコミュニケーションが安心感を生み、住民同士の助け合いが被災の苦難を乗り越える大きな支えとなったのです。

平時時にできないことは、災害時にもできない。だからこそ、日頃からの地域づくりが何より大切なのです。